

連携協定を結ぶ 福利厚生と地域活動支援

北原区は、老人独り暮らしが8世帯、老人2人暮らしも8世帯で、約半数の世帯が高齢者のみ。また約70人の区民のうち半数以上が50歳を超え、「お祭りなど区の行事もできにくい、区費の負担も困難」などの課題を抱えながら、北原区ふるさと暮らし支援委員会を中心にクルミの木のオーナー制度や田舎暮らし体験の受け入れで都市部住民と交流するなどしてきた。

アジルコアは、長野市に支社をもち、社員数は約90人。阿部兵悦社長(49)が「精神的に負担の多い環境で働いている社員に、自然豊かなところで福利厚生を図り、ストレスを発散してもらいたい」と考え、支社のある長野県内で施設を探していたところ、中学、

高校を飯山市で過ごした大森善文長野支社長(54)が、約4年前に木材をふんだんに使って建てられた施設とそのロケーション、また北原区の取り組みにも注目し、保養地としての利用を打診。北原区もこの申し出を歓迎し、双方にとって利益のある連携を目指すことになった。

今後は、アジルコアが社員の研修や福利厚生を目的に同公民館を宿泊施設として使用し、お祭りなどの行事でも区民と交流する計画で、施設運営費の8割に相当する15万円を年間費用として、また1日2000円を使用日数に応じて負担。阿部社長は「一企業として地方の活性化に何らかの貢献ができれば」と話している。

飯山市北原区と 東京のソフト開発会社



協定書に調印して笑顔の
阿部社長と佐藤区長(左から)